

鈴木 徹さんを応援しよう！

パラリンピック5大会連続入賞！ 義足の2mハイジャンパー！

PROFILE

1980年生まれ、山梨県出身。中学、高校時代はハンドボール部に所属し、山梨県代表選手として国体で3位入賞の経験を持つ。高校卒業直前に、運転していた車で交通事故を起こし、右足膝下11センチを残して切断。リハビリがきっかけとなり走高跳を始めたところ、わずか3カ月でシドニー2000パラリンピックの大会参加基準である1m73cmをクリアし、日本人初の走高跳選手として出場を果たす。2006年のジャパンパラ競技大会で日本記録を更新する2m00cmを跳び、当時世界で2人しかいない義足での2mジャンパーとなる。日本人選手団の旗手を務めた北京2008パラリンピックでは5位入賞。ロンドン2012大会、リオ2016大会では4位入賞。日本初となる義足のプロアスリートとして、自身の経験を活かし、小中学校や大学、企業など、全国各地で積極的に講演活動も行っている。



僕の人生は、ジャンプの人生。脚を失っても、スポーツがしたかった

高校3年の時でした。自動車免許を取って1カ月くらい経った頃に居眠り運転で事故を起こし、その影響で右足を膝下から切断しました。

当時はハンドボールで全国大会に出ていたこともあり、それで大学進学も決まっていたのですが、脚を失ったショックもあったのですが、それよりもまたスポーツをやりたい、義足を付けて大学でハンドボールがしたいという気持ちの方が強かったですね。病室で自分のプレーのビデオを見直していたほどでした。



でも、スポーツができなくなるかもしれないという不安は、常に頭の片隅にありました。当初は義足を付ければすぐに歩けると思っていたのですが、実際つけてみると松葉杖を使って立つのが精一杯。競技への復帰まで1~2年でいけるかどうか、と不安になりました。だから必死にリハビリしていましたね。週末にこっそり屋上で練習して、血だらけになって看護師さんに怒られたこともありました。



スポーツへの強い思いは、幼少時の経験が大きいと思います。小学校の頃、吃音症があって、周囲にはバカにされ、笑われ、いじめられるという状況でした。でも、スポーツは言葉がなくても、上手なら「おおー」と感心してもらえます。速く走ったり、高くジャンプしたり、バスケットボールでシュートを決めればみんながほめてくれたので、これが僕の生きる道だと思いました。

小学生の時の夢は、スポーツで日本代表選手になること。それも野球やサッカーではなく、最初にバスケットボール、その後ハンドボールに

取り組んだのは、自分の武器はジャンプ力で、それを活かせるスポーツだと考えたからです。今の走高跳にも通じていますね。僕の人生は、ジャンプの人生なんです。

3位と4位は全く違う。東京2020大会では、絶対にメダルを！

シドニー2000大会から5回連続でパラリンピックに出場していますが、最高位が4位。前回のリオデジャネイロ2016大会では直前に自己ベストが出ていたので、普段通り競技ができればメダルは確実だと思っていました。ところが、結果は1m95cmの4位。呆然としてしまって、その日から1週間、眠れない夜が続きました。

そんな時に、同級生である元水泳選手の萩原智子さんから、「4位に入賞したという自分を評価してあげたらどう？ 出場するだけでも大変なのに、5回も出ているわけだし」と言われて、すごく楽になりました。彼女も4位が最高位で、3年間ぐらいそれを引きずっていたそうです。

ただ、本当に3位と4位は全く違う。例えば、帰国した空港でのレーンでは最初にメダリスト、次に入賞者、そしてそれ以外、という順番で誘導されます。このようなはっきりとした差を常に感じてきたので、だからこそメダルを取りたいという気持ちは人一倍強いと思います。東京2020パラリンピックでの金メダル、そこにすべてをかけて、今は2年間のスパンで強化を進めている最中です。地元開催のアドバンテージは大きいと思っています。たくさんの方が応援に来てくれる中で、自分のジャンプが表現できて、メダルが獲れたら最高ですね。

鈴木 徹さんの走り高跳びがリアルで見れる！

試合は、9月3日(金)午前10:05開始

NHK総合・Eテレで放映します！

山梨県 山梨市出身の鈴木 徹選手。「義足のハイジャンパー」と呼ばれ、今年の東京パラリンピックでメダル獲得に懸けています。実はこの鈴木徹さん…。11月に本校で講演会を開いていただく予定になっています。題して「夢をあきらめない(仮題)」。鈴木 徹さんの活躍に注目しましょう！